

自分に正直な人たち

このコーナーでは、「女性の職業・男性の職業」という従来の枠を越え、自分に正直に「なりたい職」に就かれた方々をレポートしていきます。

なぜ鑑定士になろうと思ったのですか？

女性のベテラン鑑定士が先輩にいて結婚をして、子育てをしながらバリバリ仕事をしていました。そういう人を見ていると女性でも出来るという確信がもてました。



純子さん
純子さんは不動産鑑定士

プロフィール

氏名 木内 純子
年齢 31歳
職業 不動産鑑定士
補償業務管理士
職業についた年齢 23歳
資格は平成5年取得

女性の同僚の反応はいかがですか？

女性というだけで、珍しいかもしれませんが、不動産鑑定士の資格も持っている仕事の上では平等に扱っていただけます。もう一つは私のハンコで出た不動産鑑定評価書の成果がでる。つまり結果が出る、それで判断を下さっていると思います。結果から評価が得られる点、差別区別されないところだと思います。

仕事をしていく中で信条としていられるものがありますか？

仕事の上で、人様の財産を扱っていますので、細心の注意を払っています。私の仕事はたとえ上司でも鑑定士としては同じ立場です。それだけに20年30年経験の違う先輩のアドバイスはとても貴重です。せつかく九州で女性不動産鑑定士一号のいる職場にいますので、私も先輩から仕事以外でも多くのことを学びそれを後輩にも受け取ってもらおうことが出来たらと思っています。

出産・育児については？

出産後は産休をいただいて仕事は続けます。職場にも頑張ってきた先輩がいるし、主人の理解と家族の協力があるので苦手なことは人に甘えながら仕事をしていきたいと思っています。妊娠期間中は、近場の仕事中心にしてもらうなどして、職場で協力してもらっています。

男女共同参画社会についてはどう思いますか？

私の仕事に関しては、自分の実力次第なので、日頃から理念した勉強さえていけば男女関係なくやっているとあります。鑑定士同士互いのコミュニケーションがとれて得手不得手を補いながらよりよい仕事をしているので参画していると思います。一般的には、育児休暇を男性が取っている家庭を見ると、そういう夫婦ではたぶん男女が一緒に参画しているといえるのではないのでしょうか。

女性では珍しいバスの運転手という職業についていかがですか？

大きな車に興味があり、普通免許を取ったら、どうせ取るなら大型2種と思いました。取ったら乗りたいと思いました。

家族の人はこの仕事に就くことについて何か言っていますか？

特に何も言っていません。結婚は29才の時です。結婚前から理容師など、いつも仕事をしてきました。家庭に入ってしまうと楽でいいかもしれないけれども結婚しても、仕事はしていくと話していましたので、家族も理解してくれています。

職場では唯一女性ですが実際の仕事にたずさわってみていかがですか？

バスの運転手は、バスを運転する以外に整理券の切り替え、運賃の切り替え、案内テープの操作等4つも5つも仕事がありますので神経が疲れます。また、運転前はブレーキの点検等、20カ所の点検やバスの掃除をしなければなりません。覚悟はしていたけれど思っていたより、人命を預かるので男女関係なく厳しいです。

仕事をするとき自分の信条としていられることは何ですか？

自分なりに一生懸命やることです。いろんなことに努力していきたいです。自分のできる範囲で真心込めてお客さんに接しながらより一層運転技術を磨いてきれいに生きたいです。

仕事をしていく中で何かいやな事がありますか？

いやなことは無神経に割り込まれる事です。急ブレーキを踏めばお客さんがケガをします。皆さんが座っているわけではありませんから、立って待機倒しになると重大事故になります。

男女共同参画社会についてはどう思いますか？

タクシーやトラックの運転手に比べ現在県内では女性のバスの運転手は二人なので女性も増えればと思います。女性同士で話せることもありますから。



吉武 友枝さん
40代前半 一生懸命
今も笑顔で発車オーライ

プロフィール

氏名 吉武 友枝
年齢 36歳
職業 大分バス運転手
免許を取った年 平成5年

吉武 友枝さん